

臨床で必ず役立つおすすめ書籍

重度失語症の言語訓練

— その深さと広がり

鈴木 勉 編

重度失語症は、失語症状が重度のうえ、失語症以外の高次脳機能障害を合併することもしばしばあり、言語機能の良好な改善を期待することは困難である。その障害ゆえに当事者はさまざまな心理社会的問題を抱えていることが多く、家族も当事者と同様に不安な気持ちでいる。本書では、重度失語症者と家族の支援からはじまり、観察のポイントと精査、急性期・回復期・生活適応期各期における臨床、評価と訓練、さらにグループ訓練の意義と役割、コミュニケーションのための補助手段などを14人の失語症専門家が詳細に論述する。

● 定価(本体4,000円+税) B5 234頁 2013年 ISBN 978-4-89590-447-6



いまを生きる — 言語聴覚士と当事者の記録

東京都言語聴覚士会 編

「苦しい日々もあったけれど、いま、生きていて良かった」。平成22年9月12日の九段ホールに響いた一言が本書のすべてを語る。言語に障害のある当事者とご家族が言語聴覚士とともに苦難のなかから新たに人生を再構築していく経過をつまびらかにした本書は、既に臨床に出られている方のみならず、これから言語聴覚士を目指す方にとって、自分たちの仕事の有り様を知ることが出来る貴重な生きた教科書である。病を得た人がどのように人生を再建していくことが出来るのか、そして治療者はどのように寄り添い支えることが出来るのか、言語聴覚士にとって欠かすことの出来ない必読の書である。

● 定価(本体1,800円+税) 四六判 276頁 2013年 ISBN 978-4-89590-450-6



PT・OT・STのための 脳損傷の回復期リハビリテーション

— 運動・認知・行動からのアプローチ

森田 秋子 編著 / 運動・認知・行動研究会 著

回復期リハビリテーション病棟で働く理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の数は、年々増え続けている。脳の損傷により生じる運動・認知・行動の障害は、互いに関連し合っているため、切り離して考えられるものではない。そのため3職種は情報を寄せ合い、深め合い、掘り下げ合うための連携をとらなければならない。本書は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の個々の専門性の上に共通して理解できる領域を広げ、情報を共有することで患者の全体症状を捉え、効果的なりハビリテーションを行うために、質の高い連携を進めることを目的とした手引書である。

● 定価(本体3,600円+税) B5 220頁 2012年 ISBN 978-4-89590-396-7



失語症訓練の考え方と実際

— 新人STへのヒント

鈴木 勉 編著

本書は、先輩STから後輩STに自らが培った経験的知識を伝えることを目的として、経験豊富な執筆陣が実際の臨床での訓練内容や経過を詳述し、患者の状態に合わせたきめ細かい対応や工夫、教材の使い方、思考過程などを紹介している。どこをみて、何を感じ、何を行うか。経験に裏打ちされた、多くのヒントがちりばめられている。臨床現場で悩んだときや、よりよい失語症訓練を行いたいときに必読の一冊。

● 定価(本体3,600円+税) B5 206頁 2010年 ISBN 978-4-89590-361-5



お求めの三輪書店の出版物が小売書店にない場合は、その書店にご注文ください。お急ぎの場合は直接小社に。

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9 本郷網ビル



三輪書店

編集 ☎03-3816-7796 ☎03-3816-7756

販売 ☎03-6801-8357 ☎03-6801-8352

ホームページ: <http://www.miwapubl.com>